

## 8/29 士師記 6 章 11-23 節「行け、あなたのその力で」

小池 宏明 牧師

イスラエル 12 部族はカナンの地を分割して相続したが、その相続地をうまく治めることができず、異国の民に襲撃される歴史が続いた。その原因は、ヨシュアの死後、彼らが農作物を豊かに実らせるというカナンの神々に仕えて、エジプトから解放して下さった主なる神様を捨てたからである。しかし、主は、イスラエルを決して捨てない。主は、民が叫び求めるとさばきつかさ(士師)を起こして、救って下さった。6 章は 5 番目の士師ギデオンの召命が記録されている。

### \*ギデオンの召命

ヨシュアの死後約 200 年経っていた。イスラエルは、主の目に悪であることを行っていた。主は 7 年間もミディアン人に略奪させることを通してイスラエルを苦しめ、非常に弱くさせていた。ついにイスラエルの民は主に助けを求めて叫んだ。そんな時、主の使いが、ミディアン人を恐れて隠れるように小麦を打っていたギデオンに現れて語った。「力ある勇士よ、【主】があなたとともにおられる。」「行け、あなたのその力で。あなたはイスラエルをミディアン人の手から救うのだ。わたしがあなたを遣わすのではないか。」主は「あなたが持っている力で全力を尽くしなさい」と命じ「わたしがあなたを派遣するのだから、必ずイスラエルを救うことができる。」と励まされた。

### \*最初の働きは偶像の排除

主の召しに応じて立ち上がったギデオンに、主なる神様が最初に命じたことは、ギデオンの父ヨアシユが持っている偶像、バアルの祭壇とアシェラ像を切り倒して取り除くことだった。ギデオンは、主なる神様の命令に従ったが、まだ臆病で、人目を恐れて、昼間ではなく、夜に偶像を破壊した。ギデオンらしく、彼の力で、従ったと言えるだろう。しかし、不思議なことに、偶像の持ち主であるギデオンの父が悔い改めて味方になって弁護してくれたのだ。

### \*主がともにいる主の勇士として生きよう

主の選びは、私たち人間に力があるから、知恵や勇気があるから、ではない。主は弱い者、取るに足らない者を選び、派遣して下さる。私たちは、自分の全力を尽くして主のご命令に忠実にお従いしたい。そうすれば、主が力強く導き、困難な課題を克服させ、用いてくださるのだ。

主なる神様によって選ばれた私たちは、主に用いられる聖い器でありたい。自分の中に偶像が巣を作っていないかどうか、絶えず警戒しておこう。私たちは、自分自身を省みて、主が喜ばれないものを取り除き、主の戦いに出て行く備えをしたい。